

小学生・中学生の皆さんへ

<https://www.city.arakawa.tokyo.jp/a004/kouhou/kuhoujr/arakawakuhojr.html>

あらかわ区報 Jr. は
荒川区ホームページで
ご覧になれます



あらかわ区報 Jr.

ARAKAWA KUHO JUNIOR



No.165

12.18

2024年[令和6年]

発行: 荒川区 発行部数: 23,000部
〒116-8501 荒川区荒川2-2-3
☎(3802)3111



のれん染め若手職人
片山琢満さんに



一日弟子入り

「問合せ」荒川区文化館 ☎(38007)9234

汐入地区で四代にわたりのれん染めを
続ける、片山のれん染工所。着物などに
使われる「友禅染」の技術を使って、のれ
んや手ぬぐいなどの染めを手がけていま
す。今回、汐入小学校のジュニア記者が、
四代目・片山琢満さんの指導を受け、2
種類の染め物にチャレンジしました！



次は1月に発行する予定です

創業90年ののれん染め工房を訪問

のれん染めのこと、 教えてください!



お仕事拝見 のれん染めができるまで

1 型おこし

さまざまな図案や文字の型紙を組み合わせてデザインします。お客さんの要望によっては、新たに紙を切って型紙を作ることも。中には創業当時から残っている型紙もあります。



2 糊つけ

布に型紙を載せ、出刃というヘラを使って、もち米で作られた糊を置きます。塗った箇所がわかるよう、糊には水性の色が付いています。塗り終わったら慎重に型紙をはがし、乾かします。



3 引き染め

糊の裏に色がにじまないように張木という道具で生地をつらし、染料を付けた刷毛を左右に往復させて染めます。「緊張感と、色が染まる楽しさを感じる作業です」と琢満さん。



伊藤 穰さん

みんなの作業を参考にしながら挑戦しました



5 みずもと

水洗いをして、フィキサー、糊、余分な染料を落とします。作業は、冬場の寒い時期でも手洗いで行います。染料によって洗剤の配分を変えるほか、80℃ほどのお湯を使うことも。



奥村 拓都さん

どうしたらうまくいか考えながらやりました

4 色止め

染料はそのままだと色落ちしてしまうので、色を定着させるためにフィキサーという強アルカリ性の液体を塗ります。こちらも引き染めと同じく、張木でつるして作業を行います。



6 干す

シワにならないよう張木を使って干します。季節や気候によって湿度が変わるため、かかる時間はまちまちです。乾いたあと、縫製などの仕上げをして完成です。



こんな道具を使っています!

刷毛や出刃は、図案によって大きさの違うものを使い分けます。糊つけに使う筒や、ピンと生地を張るための伸子などもあります。



集中力や几帳面さが求められる仕事です

片山のれん染工所で主に手がける「引き染め」は、布の上に家紋などの模様や店名などの文字の型紙を載せ、その上に糊を置く工程から始まります。糊の上から色を載せると、糊が染料をはじき、その部分は染まらないのが特徴です。

【本日の師匠】
片山琢満さんとは?

荒川区に伝わる伝統工芸技術の継承者を育成する「荒川の匠育成事業」を活用し、三代目である父・片山昭さんから技を受け継いでのれん染めの道へ。「引き染めの工程は一発勝負。やり直しのきかない作業です」と四代目。



染法1 引き染めに挑戦!

片山のれん染工所で主に行っているのが、上の段でも紹介した「引き染め」という染め方です。ムラにならないよう、一定のリズムで刷毛を引くことが求められます。

染法2 藍染めに挑戦!

染めたときに出来上がりの色が大きく変わる藍染め。糊つけをした後、藍染め液に浸して干すと、青い色に変わります。身近なところでは、ジーンズなどに使われる染め方です。

慣れるには相当な期間がかりそうです!



渡部 朔太郎さん



「想像以上に難しい!」と話していた伊藤さん。作業を見慣れてきたこともあって、だんだんコツをつかめたようです。



渡部さんは「手で押さえないとうまくできない…」と試行錯誤しながら仕上げました。



糊の裏側はご覧のとおり。糊つけの作業がうまくできていたので、糊の裏に染料がにじまず、きれいに染めることができました!



緊張する大前さん。引き染めと違って刷毛を使わず、藍染め液が入った容器の中に布を入れて浸す「浸染」という方法で染めます。



藍染め液に15秒ほど浸して奥村さんが引き上げます。この段階では布はまだ緑がかった淡い色をしています。



藍の色が変わる仕組みに興味を持ちました

引き上げたあとに数分干すと、深い青色に変わりました! 空気中の酸素に染めると酸化し、色が変わるという仕組みです。

大前 美咲さん

「荒川ふるさと文化館イベント」
あらかわ伝統工芸ギャラリー展示
「あらかわの伝統工芸—金工・漆工芸—」

令和7年3月12日(水)まで開催
※休館日: 月曜日(祝日・振替休日の場合はその翌日)、第2木曜日、12月29日~1月4日
●開館時間: 午前9時~午後5時
●会場: 荒川ふるさと文化館1階あらかわ伝統工芸ギャラリー



のれん染め OXクイズ

Q1 型紙は一度使ったら捨てて、毎回新しいものを使います。

Q2 糊つけの工程で使う糊は、もち米でできています。

Q3 引き染めは、薄い色よりも濃い色を出すときのほうが難しいです。

答えは4面にあります

Close-up



滝口学区長が就任しました

11月14日、滝口学区長が就任しました。初登庁時には、来庁した多くの区民の方や区役所の職員から拍手で迎えられました。



▲笑顔で登庁する滝口区長

荒川リバーサイドマラソンが
開催されました

11月17日、「第31回荒川リバーサイドマラソン」が荒川河川敷右岸の荒川区営少年運動場を主会場として開催されました。

当日は滝口区長がスターターを務め、小学生から大人まで1200人以上のランナーが、2・3・5・10キロのコースを走りました。小・中学生も多く参加し、たくさんの応援を受けながら駆け抜けました。



▲一斉にスタート!



▲ランナーに声援を送る滝口区長

のれん染めOXの答え

型紙はとても丈夫で、丁寧に扱えば同じものを長く使い続けることができます。創業当時から約90年使い続けている型紙もあります。

A1 ×

普段の食卓に並ぶうるち米ではなく、もち米が主な材料です。現在は購入した糊を使っていますが、創業当時は糊をもち米から作っていました。

A2 ○

引き染めで重要なのは、色ムラが出ないよう均一に染めること。薄い色のほうがムラが出やすく、難易度が高いです。

A3 ×

令和6年度荒川区文化祭
小学生の部・中学生の部の俳句入賞作品

中学生の部

最優秀賞
鉛筆を走らせている夏の昼 諏訪台中学校1年・杉山真彩
カマキリがあたたまをまげて考える 諏訪台中学校2年・山部峻弘
夏至の日に昇った太陽照らす肌 第三中学校3年・木村碧良
ハイチーズせんこう花火が消えぬ間に 第一中学校2年・小野陸翔
炎天下心に刻む背番号 第四中学校3年・橋本璃果

小学生の部

最優秀賞
ホームラン天までとどけ秋の空 第九峡田小学校5年・秋元貴文
優秀賞
風鈴が春色の道をつくつてる ひぐらし小学校6年・徳田拓己
すず虫の心落ち着くコンサート ひぐらし小学校6年・國田虹乃
あらかわのきれいなそらにあまのがわ 赤土小学校6年・露口陸
炎天下快音ひびく野球場 第九峡田小学校5年・安中祐
せんふうきみんながまえにたちたがる 第二峡田小学校1年・河野渚

11月2日〜4日に、令和6年度荒川区文化祭・俳句展示会(会場:町屋文化センター)が開催されました。その中から、小学生の部と中学生の部の入賞者と作品を紹介します。(敬称略)

新 あらかわ 今昔ものがたり 2



執筆:澤田さん

道灌草と道灌山の薬草摘み

[問合せ]荒川ふるさと文化館 ☎(3807)9234

江戸時代の図鑑にみえる道灌草 みんなは図鑑を見るかな? 例えば植物図鑑。日本初の植物図鑑『本草図譜』は江戸時代に作られたものだ。みかわしな やなかしょうが 三河島菜、谷中生姜のような、あらかわゆかりの野菜も紹介されているんだ。あらかわの花としては、4〜5月頃にピンク色の小さな花をたくさん咲かせる道灌草も載っているよ。元々は、中国



▲『本草図譜』(国立公文書館デジタルアーカイブ)

から来た「王不留行」という、傷口を止血する効き目がある外来種の道灌草。道灌草は、日暮里駅前に銅像がある太田道灌が山城を築いた伝説がある場所なんだ。太田道灌は、室町時代後期から戦国時代初期に活躍した武将だよ。江戸時代の人たちには、春の桜の花見や秋の虫の鳴き声を楽しめる行楽地としておなじみで、薬草摘みの名所としても有名だったんだ。道灌山には道灌草も含め、100種以上の薬草が生えて

いたそうだよ。

ところで、薬草摘みは、お医者さんや薬屋さんのような専門家だけでなく、道灌山に行楽で訪れた人たちも楽しんでみたいなんだ。『神社仏閣江戸名所百人一首』という本では、寝そべったりしてくつろいでいる人たちの下に、地面をのぞき込んで薬草や野草を探したり、かごや袋の中を摘んだ薬草や野草でいっぱいになっている行楽客の姿も描かれているよ。ハイキングに出かけた時に、野原で四つ葉のクローバーを探して見つけられると、うれしいお土産になるよね。江戸時代の人たちも道灌山で草むらの中からお目当ての薬草を探し出して持ち帰るのが楽しかったのかもね。



▲『神社仏閣江戸名所百人一首』(荒川ふるさと文化館所蔵)